

全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

■ 番外編 残された人々

東京電力福島第一原発事故から3

年半が過ぎた。事故の爪痕は深く、

今なお12万人余の県民が避難を強い

られる。全電源喪失に至る過酷事故

は起きないと安全神話にあらをわか

いた国と東電の責任は重い。事故は

どんな教訓を残したのか。情報伝達

の在り方とは。立地自治体の思いと

は。そして再び事故が起きた時にそ

る。それを止めるのは誰か。証言から探

る。

ゴゴゴゴゴ…。中央制御室の

スピーカーから地鳴りが響き、ブジ

タル式の制御盤の警告ランプが一斉

に点滅を始めた。何種類もの警報音

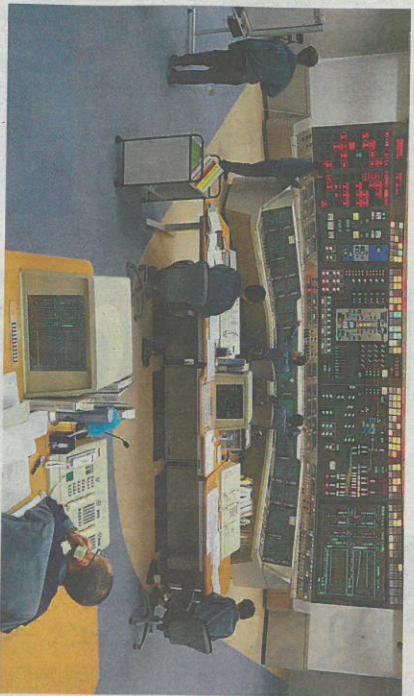
がけだましく鳴り、運転員たちが

慌だたく動き出す。

「原子炉スクラム(緊急停止)！」

1

緊迫の過酷事故訓練



過酷事故を想定し、シミュレーター訓練する東京電力柏崎刈羽原発の運転員ら。9月下旬、新潟県刈羽村のBWR運転訓練センター

15分で燃料が露出

新潟県刈羽村の沸騰水型軽水炉

(BWR)の訓練施設「BWR運転

訓練センター(BTC)」で9月

旬、隣接する東京電力柏崎刈羽原発

が、7号機の運転員が過酷事故を想

定した訓練に臨んでいた。

BTCはインターネットや各電

力会社が出資した施設で、新潟の施

設には世代別の中央制御室を再現し

たシミュレーターが4機あり、各社

の運転員が訓練に訪れる。

この日は東日本大震災と同じグ

ラフなシナリオだ。事故がどう進

展するか運転員たちには知らされて

いない。

「RCIC(原子炉隔離時冷却系)

トリップ(落ちた)！」

「ドライウェル(格納容器)圧力

上昇」

運転員たちの緊迫したやりとりが

続く。

「DG起動」。外部電源を失った

第1原発事故後、BTCでも当時

は起動した。しかし注水設備はこれ

も動かない。制御盤中央にある原子

炉水位計の赤いデジタル目盛りがみ

るみるうちに下がっていく。

「TAF1」

別の原因で作動しないという敵し

い想定だった。設備が復旧して原子

炉内水位が回復、約4時間の訓練

が終わった。柏崎刈羽原発原子力安

全センター所長の宮田浩一が言う。

「訓練で想定する事態が」絶対

にないと否定はできません。われわ

れが考えている以上のことが起り

得る。それが事故の教訓です」

(敬称略。共同通信 国分伸矢)

明はもろろ、制御盤のランプ表示

も全て消え、闇に包まれた。

「RCIC(原子炉隔離時冷却系)

トリップ(落ちた)！」

「ドライウェル(格納容器)圧力

上昇」

運転員たちの緊迫したやりとりが

続く。

「DG起動」。外部電源を失った

第1原発事故後、BTCでも当時

は起動した。しかし注水設備はこれ

も動かない。制御盤中央にある原子

炉水位計の赤いデジタル目盛りがみ

るみるうちに下がっていく。

「TAF1」

別の原因で作動しないという敵し

い想定だった。設備が復旧して原子

炉内水位が回復、約4時間の訓練

が終わった。柏崎刈羽原発原子力安

全センター所長の宮田浩一が言う。

「訓練で想定する事態が」絶対

にないと否定はできません。われわ

れが考えている以上のことが起り

得る。それが事故の教訓です」

(敬称略。共同通信 国分伸矢)